

会 議 記 録			
会議の名称	総務文教常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 数井
日 時	令和5年11月15日（水曜日）	開 議 閉 議	午後1時30分 午後2時39分
出席委員	◎松山 ○三上 竹内 小林 浅田 原野 福井 山本		
執行機関 出席者			
事務局	井上事務局長、数井事務局次長		
傍聴	可	市民 0名	報道関係者 0名 議員1名（木村）

会 議 の 概 要

13:00

1 開議

【事務局日程説明】

13:01

2 案 件

（1）学校給食に係る提言について

<松山委員長>

これまで教育部から亀岡市学校給食検討懇話会の報告を受け、また、学校給食センターの視察も行った中で、小学校給食の継続と中学校給食の開始に向けて、総務文教常任委員会として提言していくことを前回決定いただいた。については、提言案を別紙のとおり作成したので、朗読する。

【委員長 提言書案朗読】

<松山委員長>

意見はあるか。

<福井委員>

喫食率が「悪く」ではなく、「低く」である。危惧していることは、亀岡市学校給食検討懇話会が提言した内容で教育委員会がそのとおり決定することで、それではあまりに無責任である。提言書案は方式の検討、食育の推進と給食の量に関する内容に触れており、必要なことは記載されていると思う。

<松山委員長>

亀岡市学校給食検討懇話会の提言に頼ることのないように、といった文言を入れたほうがよいか。

<竹内委員>

現場との連携や適切な栄養士の確保など、ソフト面についても触れたほうがよい。

<松山委員長>

提言書案の項目3に、「給食環境の確保」として人材の問題について触れている認識ではあるが、あえて文言にするかどうかの意見である。ひとまず、亀岡市学校給食検討懇話会の提言頼みにならないように、の件について整理したいので、それについての意見はあるか。

<福井委員>

先ほど説明が足りなかったので補足する。亀岡市学校給食検討懇話会を否定するものではなく、教育委員会事務局の進め方の問題であって、亀岡市学校給食検討懇話会に提供されている資料が限定した内容であり、例えば、方式の検討資料にしても、一般的なコスト比較をしているだけであり、これでは亀岡市にとって一番よい方法は導き出せないのではないかという点を危惧している。提言書案の後に、具体的な例示として、育親学園に給食センターを建設する案やソフト面についても記載する方法もあると思う。

<松山委員長>

提言書を受け取った側がよりイメージできるように例示を作成してはどうかとのことである。ほかに意見はあるか。

<小林委員>

親子方式を採用された先進地では、視察の際に、親となる学校が工場扱いとなるため、建築基準法の規定をクリアするのに大変な苦勞があったと話されていた。実際に育親学園で親子方式ができるのかどうかについて、教育部から明確な回答はなかったように思う。福井委員からあったように、一番よい方法を導き出すためにも、もっと考える時間が必要だと考える。

<山本委員>

本委員会から提言をするときに、項目ごとに詳細な内容を別紙にまとめ、具体的な説明をする方法もある。また、提言書案の本文3行目、「今後の学校給食の在り方を検討されています。」で終わってしまっているの、「検討されているところではありませんが」として、本委員会の意向も記載してはどうかと思う。

<福井委員>

提言書はこの案でよいとして、今、山本委員からあったように別紙で具体的に説明する方法はあると思う。委員それぞれの意見を別紙にまとめたらどうか。

<松山委員長>

今の意見のとおりで、委員全員で給食について考えたことを提言の中身として伝えていきたいので、自由討議で意見を出していただきたい。

<小林委員>

食育に関連して、地元産の食材使用やオーガニックビレッジ宣言の実行にあたり、地域生産者との連携についても考えていただきたい。

<福井委員>

保津小学校の有機米の取組はどうなっているのか。学校で炊飯しているのか。

<三上副委員長>

予算ベースでは、米飯食のうち、年間22回が有機米を使用とのことであるが、学校で炊飯しているかは分からない。

<浅田委員>

中学校給食が始まるのはよいことであり、最終的にどんな形であれ給食になってよかったとなるように進められるべきである。

<原野委員>

学校給食のことを考えるといろいろな点で中途半端だと感じる。育親学園は自校給食

ができるが、現学校給食センターには老朽化の問題があり、保津小学校だけがオーガニック米を食べている。運営と管理面も踏まえてより検討されるべきである。

<小林委員>

11月12日に広報広聴会議で中学生に街頭インタビューを行ったところ、温かい給食が食べたいと言っていた。

<福井委員>

進むべき方向が明確でない中で、亀岡市学校給食検討懇話会に有利か不利かの判断を任せていることがどうかとを感じる。

<松山委員長>

亀岡市学校給食検討懇話会で話された内容で市民に説明できると考えているようであるが、それでは不十分だと思う。十分に話ができているのであれば、この前の行政報告もよりもっと詳細な内容になっているはずである。提言書案に「多様な選択肢についても検討を重ねられたい。その上で、早期に最善の方向性を決定されたい。」としたが、本当にその方向性を早期に示してもらいたいと思う。また、地産地消の観点は重要であるが、オーガニック給食のことに触れるとその方面の話に重心がいくので、別で考えたほうがよいと考えている。

<小林委員>

アンケート結果から、教職員の多くが給食に反対している点が気になる。

<竹内委員>

確認であるが、教職員が反対していたのは業務が増えることについてであったか。

<松山委員長>

カリキュラムを再編成しなくてはいけない点に抵抗があるとのことである。

<三上副委員長>

10月19日開催の第3回亀岡市学校給食検討懇話会の議事録では、あと2回の開催となっており、次の亀岡市学校給食検討懇話会で提言を取りまとめるようである。同懇話会委員から、提言の骨子に関しての発言があるため、同懇話会には提言書に係る何らかの資料が提出されていると思われる。教育委員会には、教育の理念に基づいてしっかり考えてと言いたいところであるが、亀岡市学校給食検討懇話会のスケジュールはそのように進んでいるので、本委員会の提言にスピード感が必要ではないかと感じている。亀岡市は給食では後進地であるが、逆に遅れているからこそ、一番よいものをする、亀岡市のシティプロモーションにつながるように、亀岡ならではの取組として、オーガニックビレッジ宣言、子どもファースト宣言、SDGs未来都市、環境先進都市といった独自性を生かし、一般論で議論するのではなく「亀岡の給食」を考えてほしい。また、どの先進地視察先でも一般財源を多く計上し、栄養士の確保をしているので、その点も充実していただきたいと思う。

<事務局次長>

亀岡市学校給食検討懇話会の状況を執行部から確認したので報告する。第3回亀岡市学校給食検討懇話会で委員から意見を募る予定であったが、時間がなかったため、メールで意見集約を行った。次回委員会で取りまとめた意見をもとに提言書を作成されるとのことである。

<福井委員>

これまで各委員からの意見を聞いた上で感じたことであるが、加えるとすればかなり多くのことが出てくるため、一旦この内容で提言してはどうか。現時点で提言し、亀岡市学校給食検討懇話会からも提言があれば、その時点で執行部と本委員会で話をする場が持てればよい。

<松山委員長>

今、福井委員から意見のあったとおり、早急に本委員会から提言をし、亀岡市学校給食検討懇話会から提言されれば、それを確認し、必要があれば再度提言する方向で進めたいがどうか。

—全員了—

<松山委員長>

提言案について、修正を加えた後、各委員に再確認していただきたい。また、市長、教育長へ総務文教常任委員会委員全員で提出したいと考えているが、委員会及び面会日程はどうか。

<事務局次長>

次の本委員会の開催予定日は、12月議会中、12月11日の議案審査日である。その後、予定されている議会運営委員会は12月15日である。市長日程は秘書課に確認する。

<松山委員長>

今から提言書案を修正するので暫時休憩する。

(休憩)

14:20~14:35

<松山委員長>

提言書案を修正したので、確認願う。

【委員長 修正箇所説明】

<松山委員長>

この内容でよいか。

—全員了—

<松山委員長>

提言書案は11月20日の議会運営委員会に諮る。提出の日程については追って連絡する。

3 その他について

(1) 次回の日程について

12月11日(月)午前10時から議案審査

※提言書提出日：11月27日(月)本会議終了後

散会 ~14:39